

1. 大学の法人化と社会貢献

佐賀大学が法人化されて2年半が経ちました。ここでは、法人化の前後から大学改革の主要な課題とされてきた大学の社会貢献について考えてみます。「社会貢献」とは新しい言葉ですが、法人化前から大学は教育と研究活動を通じて社会の役に立つ役割を果たしてきました。そこで、社会貢献の内容について整理してみましょう。

まず、従来のように大学は未来の社会に備える役割を担っています。50年後、100年後、自然科学の世界では200年後(?)の社会を予想することは難しく、未来の社会とそれを支える未来の人を育てる役割です。そのために大学の教育と研究は、学問の自由のもとで、教員個々の自由な教育・研究活動に負っていると言えます。大学以外にこのような役割・使命を持った機関は存在しません。これは大学の際立った特徴です。社会貢献の一つ目は「大学は、『個』々の自由な教育研究活動を通じて未来の社会に備える」ことです。

次に20世紀後半から、環境問題、人口・食糧問題、エネルギー・資源問題、安心・安全問題など早急に解決すべき課題が山積しています。一方、国あるいは経済ブロックの間で新産業の創出をめぐる激しい競争が続いています。いずれも国際的で学際的な課題です。これらの今日的諸問題を解決するために大学への期待が顕著になってきました。従来にない大学の社会貢献です。この期待に応えるために、課題解決という明確な目的のもとで、教育と研究活動を組織する必要が出てきました。例えば佐賀大学の「有明海総合研究プロジェクト」です。社会貢献の二つ目は「大学は、今日的課題の解決のために、教育研究活動を『組織』して社会に貢献する」ことです。

このように考えてきますと大学の社会貢献は大学の使命と同じ意味であることが分かります。二つの使命は社会の変化に対応しながら互いの相乗効果を期待して社会の発展の一翼を担うことです。とくに二つ目の社会貢献は、今日的課題の取り上げ方によって、大学の特色・特徴のアピールに繋がります。本年4月制定した佐賀大学憲章は、法人化された佐賀大学の「建学の精神」と「二つの大学の使命」を明らかにしたものです。佐賀大学は、佐賀の歴史、文化、風土に依拠する「佐賀の大学」です。窯業、反射炉などを近代文明の源流とする文明の創造、豊饒の海・有明海と玄海・の環境保全、佐賀の歴史文化の継承を通じて、人格を形成し、社会の要請に応え、探求の心を育み、進取の精神を養う大学です。

2. 佐賀大学の将来を展望するにあたって

私は、法人化1周年記念の挨拶で、21世紀は多様化の時代であり、具体的には地域の再発見と国際化の推進をとりあげました。2年間の学習の成果(?)として、改めて21世紀は「集中と分散」の時代であると考えます。「集中と分散」は、教育研究活動の「組織」的取り組みと「個」々の担う教育研究活動に相当します。また、学際性と専門性、国際性と地域性、中央集権と地方分権、連携と競争等も集中と分散の例です。変化と多様性は集中と分散を繰り返して生まれます。そして変化と多様性をコントロール力は「知」の創造です。「知」の力はすべての学問分野の総合的発展によって保証されます。21世紀は「知」の時代でもあります。

今、佐賀大学は教育と研究体制の再編を図っています。再編に際して私が考え

ている三つの基本的な観点を紹介します。

- (1) 総合大学の証明です。佐賀大学は、職員数、学生数から見て、多くの学問分野を駆使して総合的・学際的な教育研究の創造に挑戦できる適正規模の大学です。総合大学の威力を証明する再編を望んでいます。
- (2) 学士課程と大学院課程の実質化です。少子高齢化の時代に入りました。これからの学士課程は「証明された総合大学」によって創出される教養教育を中心とし、専門教育は大学院課程に移行すると予想されます。とくに大学院修士(博士前期)課程は今日的課題に取り組む人材の育成が要請されています。
- (3) 教育組織と教員組織の分離です。二つの大学の使命を果たすために集中と分散を可能にする教育研究体制が必要です。また、佐賀大学は、学生(教育)中心の大学であるとともに、佐賀の大学として社会の要請に応えるために学術研究の水準の向上を必要とします。教員は研究を中心に組織するのが好ましいと考えています。